



たえこ通信

お元気ですか 柳田たえこです



せめて40-50%は必要

参議院、改憲手続き法案にかんする地方公聴会でも慎重審議を求める意見があいついでいます。与党推薦人でさえ、最低投票率は「せめて40—50%の定めが必要」と発言しています。

たえこ通信 NO. 16 2007. 4. 26発行
日本共産党 小川町議会議員 柳田多恵子
〒355-0311 比企郡小川町高谷 2507-2
電話/FAX 0493-73-2562
ホームページ <http://www.yanagitajp.com>
ブログ <http://yanagita.exblog.jp>

地震がおきる確立は低いとはいえず、小川町から寄居の今市にかけて活断層があります。小川町の防災計画については、以前にも議会でも取り上げました。今年度は、町の防災計画が改訂されることから、●災害弱者といわれる高齢者（ひとり暮らしや寝たきりの方）、障害者の方たちの避難計画の作成状況はどうなっているのか●家具を固定する金具などの助成が出来るのか●緊急連絡システム装置（六五歳以上のひとり暮らしで病弱な方や障害者の方に、申請により貸与されているペンダント形の緊急連絡器具）の貸与枠を広げることができないか、三月議会で取り上げ、一般質問した矢先の能登地震でした。下図をらんになると分かるように小川町も昭和三六年前に建てられた家屋が多数残っています。ひとり暮らし、高齢者夫婦のみ世帯が65

S36年以前の建物がまだ 20%も残っています

地区	木造建物（棟）			木造建物 合計（棟）	S56年以前 の建物（棟）	S56年以前 の割合（%）
	S36年以前	S37~56年	S57年以降			
小川地区	1,522	2,086	2,197	5,805	3,608	62.2
大河地区	1,178	1,844	1,863	4,885	3,022	62.9
竹沢地区	320	882	927	2,129	1,202	56.5
八和田地区	655	1,020	1,185	2,860	1,675	58.6
東小川地区	0	79	1,352	1,431	79	5.5
みどりが丘地区	0	0	1,174	1,174	0	0.0
ひばりが丘地区	0	0	0	0	0	0.0
計	3,675	5,911	8,698	18,284	9,586	52.4
割合	20.1	32.3	47.6	100.0	52.4	—

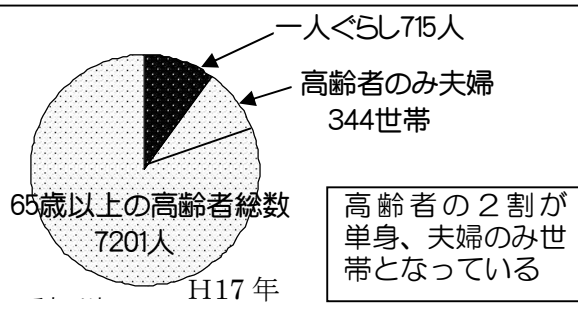
小川町地域防災計画（H19年）より抜粋

小川町のお年寄りの現状は？

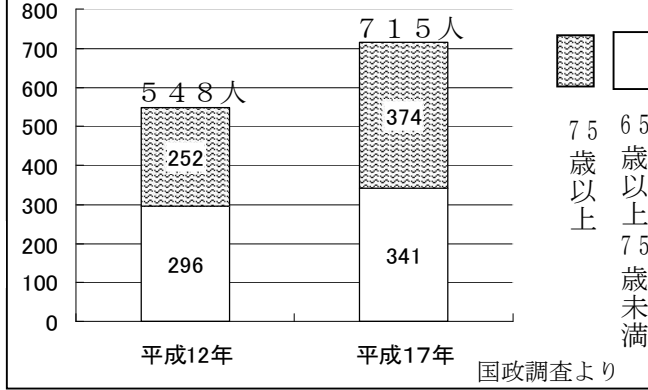
三月二十五日、大きな被害をもたらした能登地震発生から一ヶ月が過ぎました。被害地では少しずつ日常の生活に戻ってきたということですが、いまだに避難所生活をおくる方も750人いらっしゃいます。特に高齢者の方たちは、心労がたまり健康面での不安も深刻です。報道機関の調査によると、能登半島地震の体験のうち、大きな地震がこの地域で起こるとは思っていなかった人が8割を占め、7割が家具の固定をしておらず、地震が少ないとされてきた地域の危機感の薄さが改めて浮き彫りになったということです。

能登地震、お年寄りのくらし直撃

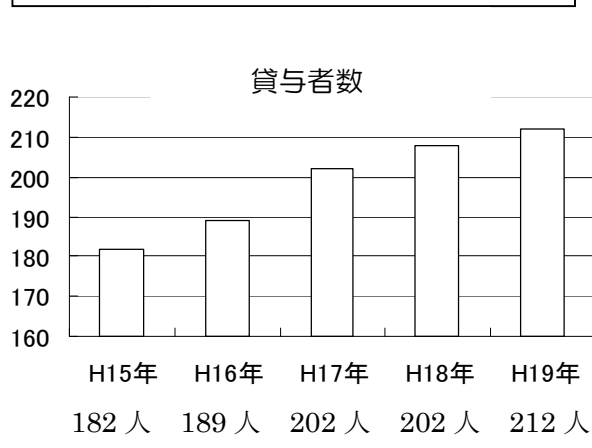
歳以上の高齢者の2割になっていますが、それに比べ緊急連絡システム貸与者数の割合はそれほど



小川町の高齢者一人ぐらしの推移



緊急連絡システム貸与者数の推移



と増えています。「昼間は近所の方などが寄ってくれるが、夜ひとりになるととても不安になる。」というお年寄りもいらっしゃいます。お元気だった方が、突然倒れ、そのまま重病化するという例もあります。高齢者をめぐるには、税制改革、医療改革といった社会環境の悪化をもろに受け、町を歩くと胸が痛む話を聞くことが多くなりました。民医連の調査によると、所得の低い人ほど社会的に孤立している実態が明らかになりました。医療や介護から疎外され、孤独死問題が深刻化する可能性もあります。対策として、一しほ口頭の見守りや、いざいざ災害が起きたときには、住民相互が助け合う仕組みを作っておくことなど「地域の力」を発揮することが求められ、期待されます。しかし、住民のいのちやくらしを守るには町としての役割であり責務です。そのために必要とされる予算措置が必要ではないでしょうか。